

東京の産業と教育

会 の 目 的

本会は産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校等の産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

「ものづくり」と「行政」

株式会社昭和製作所 代表取締役

舟久保 利 明



大田区の中小企業はこの10年間で激減し、15000社から5000社足らずになった。最大の原因は、国内産業の空洞化に端を発する大企業を頂点とするピラミッド型生産構造が崩壊した事である。町工場は“仕事を待つ工場”であったからである。

この間、工場の減少を食い止める識者の意見は各種の講演会・出版物で見られたが、結果として効果をあげることはできなかった。行政側についても、中小企業者の目からすれば、手を拱いていたと言われても仕方のない状況であった。

最近になって、行政はインターンシップに代表される学校外の教育に力を入れ始めている。例えば、従来の工場見学を充実させたものとして、東京都では既に「中学生の職場体験」を実施している。これは、公立中学2年生が5日間の職場体験を行うものであり、ものづくりの職場に限らず、将来の社会生活を覗き見ることと同時に、自分の住む地域との結びつきを感得することが、大きな目的とされている。

この事業において、ものづくりの職場で体験できる生徒が極めて少数であることは残念である。その理由として、ものづくりに興味の無い中学生が増えていることに加え、零細企業の多い都内中小企業が様々な理由から参加し難いことなどがあげられる。

しかし、ものづくりの基本は技能であり、その現場を少ない人数とはいえ中学2年生の段階で自らの目で見ること、例え将来においてもものづくりの世界に入らなくとも、成人となったときに計り知れない影響を与えるはずである。

中学生が見る町工場の技能者の大半は寡黙な名人である。その名人の殆どが「待ち工場」とともに消えていったのが冒頭に述べた大田区の現状であった。環境の激減に耐えられず、営業・設計・開発力を持たない町工場は消えるべくして消えて行ったともいえる。

ということであるならば、今すぐに“誰かがやらねばならない”ことは明白である。

名人を再発見しデータベース化すること、その名人は殆どが経営者であるためにその技能の存続を支援すること、同時に、その技能を単独或いは複数を結び付けて世に出すことのできるコーディネーターを育成することである。そうしてこそ、大田区の町工場はオンリーワン企業として生きる道を見つけることになるのだろうと信じてやまない。

行政は、長期的視野に立ち、次世代の若者がこの世界に入ってくる時代が来るまで必死の覚悟で取り組まなければ、資源の無い国の生きる道は、かなり展望の無い国になっていくかもしれない。

福祉科の概要について

東京都立野津田高等学校 福祉科主任 小山 哲 広



本校福祉科は、平成 18 年 4 月に、これまでの普通科看護福祉コースを改編し、東京都唯一の福祉科として発足した。この改編に伴い、取得可能資格が、訪問介護員二級から介護福祉士国家試験受験資格となった。

在学している生徒たちは、しっかりとした目的



意識を持ったものが多く、将来の職に向かって、日々努力している。

1 福祉科の目標及び基本理念

- ・ 生命の尊さを真摯に学び、人間尊重の精神をしっかりと身につけ、共生の視点より社会の援助者として行動できる資質及び心を養う。
- ・ 福祉・保育や看護・看護医療についての基礎的・基本的知識や技術を身につけ、将来、福祉や看護の世界で活躍しうる力を養う。
- ・ 知識の吸収のみならず、日常的なボランティア活動や体験的な学習などの実践的活動により援助者としての資質の向上を図るとともに、地域社会に貢献する活動を行う。
- ・ 国民の健康の保持・増進に寄与する能力・態度・行動力を養う。
- ・ 高齢、障がい、疾病等による様々な問題に対する援助、介護及び自立生活の実現の寄与に努める能力・態度を養う。

2 本校福祉科が求める生徒

- ・ 福祉や看護に関する原体験（例：祖父母と同居、自分自身の入院等）を持ち、将来、福祉や看護などの対人援助に関する職に就くことを強く希望する生徒。
- ・ 福祉や看護における事故の多くが、手順の省

略等ヒューマンエラーであることに鑑み、法はもとより校内のルールもきちんと守ることができる生徒。

- ・ ボランティア・実習や教科活動に、主体的・自主的・積極的に参加し取り組むことのできる生徒。
- ・ 自分自身の心にきちんと向き合うことができる（自己覚知）、また、他人の心を受け入れることができる（受容）生徒。

3 福祉人材の育成に関する実践

福祉科生徒に対する指導の三要素（知識・技術・心）のうち、知識については、専門科目の内容充実を図るとともに、市民講師の方（福祉・看護関連）に講演会及び授業をお願いすることにより、より現場の理解につながるようになっている。

技術については、週あたり 8 時間、臨床の看護師から指導を受けるとともに、高齢者デイサービス・老人保健施設・特別養護老人ホーム・介護療養型病床群・在宅サービス・重症心身障害者施設・特別支援学校・保育園・総合病院・精神病院等で、完成年度においては、3 学年合計年間延べ日数 1,000 日を超える実習を行っており、関係施設は約 50 施設となっている。

心については、将来、対人援助を行う者として、また、命と向き合う者としてどうあるべきかということを、福祉関連授業の中だけではなく H R や日常生活の中で常に問いかけている。

最後に、介護福祉士の養成に関する法律が改正されたことを受け、21 年度以降の新しいカリキュラムの作成等を緊急の課題としている。



「酪農家」の担い手育成

東京都立瑞穂農芸高等学校 畜産科学科教諭 平 柳 伸 幸



1 はじめに

本校畜産科学科は、都内で唯一畜産について学ぶ学科です。2年次より酪農類型、養豚類型、実用動物類型の3つの類型に分かれ、それぞれ特色ある専門教育を実践しています。酪農類型では一人でも多くの生徒を酪農家に育てることを目標に、現在13頭の乳牛飼育を通して、担い手育成を実践しています。

2 特色ある授業

本校で生産される牛乳は、365日休むことなく生徒たちの手によって搾られています。授業時間以外の実習も多く、このような実習はすべて生徒の自主的な実習として位置付け、生徒たちの主体的に学習する姿勢を育成しています。また、朝の7時から管理実習が始まる関係で、始発の電車に乗って登校する生徒や土日などの休日にも自主実習に取り組むなど、ウシ中心の学校生活を送っています。

「宿泊分娩実習」分娩実習では、生徒が分娩を介助することで、分娩介助の技術を身に付けるとともに、命の大切さをはじめ、言葉には表すことのできない多くのことを体験しています。



「乳牛共進会」自分たちが育てた乳牛を順位付けという形で評価してもらえるため、乳牛飼育の難しさを実感させる良い機会となっています。

また、今年度は全国大会へ東京都代表として出

場することができ、生徒たちの自信にもつながりました。



「校外実習」長期休業中や休日を活用して、都内の酪農家をはじめ、全国にある牧場で校外実習を実施しています。牧場等での現場実習は、酪農の魅力や楽しさのみならず、日本の農業の現状と酪農の厳しさを学ぶ機会でもあります。酪農家との交流が酪農の道を切り拓く生徒にとって、とても大切な生きた学習の機会となっています。この成果をより高めるために、酪農関係者との連携や生徒を育てる協力体制をより充実させることが大切です。

3 卒業後の進路

非農家出身である酪農類型の3年生8名中5名が酪農家や人工授精師になることを目標に酪農関係の大学や大学校に進学します。また、酪農家や酪農ヘルパー、人工授精師として活躍している卒業生がたくさんいます。

4 まとめ

酪農類型では、平素の自主実習をはじめ、酪農関係者の方々の多大なるご協力により、生徒たちが酪農の面白さを知り、酪農という職業に魅力を感じ、酪農の勉強を通して人間としても大きく成長していきます。これからも牛とともに酪農の勉強に励む生徒たちを見守り、酪農家の担い手育成に努めていきます。

平成20年4月開校の高等学校紹介

東京都立世田谷総合高等学校 単位制・総合学科・全日制

東京都世田谷区岡本 2-9-1 TEL 03-3700-4771
東急田園都市線・大井町線「二子玉川駅」徒歩 15 分
小田急線「成城学園前駅」バス 20 分

本校は、都立高校改革推進計画第二次実施計画に基づき、都立で 8 番目、旧 2 学区に初めての総合学科高校として、本年 4 月に開校します。

【本校の特色】

①幅広い 6 系列に多様な選択科目の設置

社会・教養・環境・サイエンス、国際・文化理解、情報デザイン、ライフデザイン、ものづくりの系列を配し、単位制、総合学科の特色を最大限活かし、100 科目以上の選択科目を少人数編成で学習します。

②進路実現につながる一人ひとりの時間割

進路実現のため、個人の能力・適性にあった自分独自の時間割で、意欲的に学べます。

③総合的な「人間力」を高め、進路実現につながるキャリア教育システム

本校独自の「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」を中心として、社会人としての能

力や態度を育成します。また、キャリアカウンセラーによる進路相談が充実しています。

④生活マナーを重視し、自主・自律の態度を育成

時間、身だしなみ、言葉遣い等の生活上の規律やマナーの指導を重視し、自主的・自律的な行動ができるよう「ノーチャイム、ノー放送」を実施します。



校舎全景（模型）

第17回全国産業教育フェア沖縄大会に参加して

東京都立町田工業高等学校長 石坂 政俊

今年度の全国産業教育フェアは、11 月 23 ～ 24 日沖縄県宜野湾市にある沖縄コンベンションセンターと宜野湾市営運動公園を中心に、「輝く海と太陽に集え！創る技術と産業の輪！未来へ発信！」をメインテーマとして開催されました。

オープニングアトラクションでは、生徒実行委員会によるエイサー「風の結人」、沖縄県立南風原高校による「歓待の舞」が披露され、会場には南国の花が飾り付けられるなど、心温まるものでした。

開会式では、主催者を代表して文部科学省の前川大臣官房審議官より、「専門高校で学ぶ生徒の皆さんは将来のスペシャリストであり、地域の発展に貢献していくことが期待されています。生徒の皆さんが沖縄大会に集い、心の交流を深めるとともに、専門高校の素晴らしさを紹介する機会でもあります。」との挨拶がありました。

また記念講演では、女優の比嘉愛未さんから「私からのエール～夢実現のために～」と題する講演があり、続いて比嘉さんと生徒たちによるトークショーが行われました。



同時開催された「全国産業教育振興大会」では、文部科学省の安藤初等中等教育局参事官より、将来の技術者は 100 万人以上不足の試算もあり、知識に立脚した人材育成、生徒一人一人に職業観・勤労観育成、地域と密着し現場と学校が共に協働する産業教育が求められている旨の話がありました。

中学校技術・家庭科

第5回創造ものづくりフェア in TOKYO

東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長

大田区立大森第二中学校長 **税 所 要 章**

第5回創造ものづくりフェア in TOKYO は11月23日(金)祝日に足立区千寿桜堤中学校と女子栄養大学(食部門)の2会場にて開催した。参加生徒数は381名あり、会場は熱気に包まれた。

入賞者は下記の通りである。

めざせ!! 木工の技チャンピオン 東京地区予選

1位	大田区立大森第二中学校	井内 雄太
2位	大田区立大森第二中学校	篠村 健人
3位	大田区立大森第二中学校	岩崎 一暉

全国中学生創造アイデアロボットコンテスト

東京地区予選

< A-1 部門 >

1位	豊島区立千登世橋中学校	RB26・改
2位	港区立赤坂中学校	KOKI 3号
3位	渋谷区立広尾中学校	筋斗雲

< A-2 部門 >

1位	港区立赤坂中学校	アンファイブ
2位	豊島区立千登世橋中学校	

アンラッキー・フレンズ

3位	豊島区立千登世橋中学校	無双
----	-------------	----

< B 部門 >

1位	江東区立深川第八中学校	ベンゼン
2位	豊島区立千登世橋中学校	ジャンゴ侍 EXE

< C-1 部門 >

1位	大田区立大森第二中学校	千手観音
----	-------------	------

< C-2 部門 >

1位	豊島区立千登世橋中学校	
	2足歩行ロボット格闘競技	
2位	豊島区立千登世橋中学校	
	2足歩行ロボットスラローム競技	

あなたのためのおべんとうコンクール東京地区予選

1位	足立区立第十一中学校	
	宮崎あずさ 高橋奈月 稲浪あずさ	
2位	新宿区立四谷中学校	
	金井真由 若林理紗 友貞 舞	
3位	大田区立馬込東中学校	
	中村寿美香 湯浅美咲 増田彩華	

生徒作品コンクール 東京地区予選

I 部門<技術分野>

○ボールペン

足立区立第十一中学校	越路 真衣
------------	-------

○マルチラック

大田区立糀谷中学校	村山 雄太
-----------	-------

○エンブレム

足立区立第六中学校	山本 和音
-----------	-------

<家庭分野>

○ワンピース

渋谷区立笹塚中学校	甘利 五季
-----------	-------

○フェルトのさいころ

葛飾区立桜道中学校	坂牧 章名
-----------	-------

○四季のウェアボックス

都立両国高等学校附属中学校	太田みのり
---------------	-------

II 部門<技術分野>

○折りタタミ腰かけ

港区立赤坂中学校	森 彌寿珠
----------	-------

○映像実体機

練馬区立関中学校	尾崎 哲也
----------	-------

<家庭分野>

○ショルダーバッグ

足立区立第十二中学校	野中 知世
------------	-------

○タペストリー

足立区立花畑北中学校	小島 亜紀
------------	-------

東京都ロボットコンテスト

<スプリンター部門>

1位	足立区立興本扇学園扇中学校	SEA
2位	板橋区立高島第一中学校	3442ST
3位	足立区立興本扇学園扇中学校	KARASU

<スラローム部門>

1位	豊島区立千登世橋中学校	プロトタイプα
2位	豊島区立千登世橋中学校	マガルノーα
3位	豊島区立千登世橋中学校	カズオ

< K-1 ライト級部門 >

1位	豊島区立千登世橋中学校	三郎
2位	板橋区立高島第一中学校	超機械恐竜
3位	足立区立江北中学校	ACE - 2
3位	荒川区立第七中学校	バルディエル

< K-2 ヘビー級部門 >

1位	豊島区立千登世橋中学校	M. B. L
2位	豊島区立千登世橋中学校	十六島 193号
3位	足立区立江北中学校	ナマズ 1
3位	江戸川区立鹿骨中学校	SUPERZ 4

東京都ホームソーイングチャンピオン

1位	杉並区立井草中学校	木下ひかり
2位	葛飾区立新宿中学校	大和 有佳
3位	葛飾区立常磐中学校	市瀬 綾

株式会社チバダイス

資本金：4千8百万円 代表取締役：千葉 英樹
東京都葛飾区高砂 1-26-2 TEL 03-3696-4441

〈創業〉

昭和41年、葛飾区立石で歯車工具の製造を始める。

〈従業員数、営業拠点〉

40名。

葛飾区高砂の本社工場では小形金属歯車の製作、埼玉県八潮工場では小形プラスチック歯車の金型などを製作している。

〈事業内容〉

プリンターやコピー機、デジタルカメラ、自動車など身近なものに歯車はたくさん使われています。これらの歯車を切削して作ったり、金型を製作して大量生産したりしています。またプラスチック・ギヤ・システム研究所では歯車の耐久性や騒音の研究をしています。

〈経営理念〉

チバダイスでは「歯車を育む、人を育む」ことを目標にしています。

「歯車を育む」とは自分の仕事に誇りを持ち、一所懸命に仕事に打ち込むことです。

「人を育む」とは仕事を通して一所懸命に勉強し、人間として成長しようという意味です。

仕事を“生活のため”と割り切るのではなく、“楽しむ”ことが大切です。

〈青年へのメッセージ〉

モノ作りは楽しいですよ。いろいろな会社を見学しよう。



歯車用金型



プラスチック歯車

株式会社建築資料研究社

資本金：3千8百万円 代表取締役：馬場 栄一
東京都豊島区西池袋 1-15-7 TEL 03-3986-2594

〈創業〉

1969年8月に設立。工務店向け図面集（原図資料集）や建設関連書籍を販売していく中、建設業界に対し、夢を追う人々をサポートしていきたいという想いから、1976年に資格取得を目的とする学校「日建学院」を開設。現在、建設関連資格に留まらず、不動産・会計関連など、全26資格に対応する講座を開講し、多くの方々の“夢”実現の応援を続けています。

〈従業員数、営業拠点〉

1,300名

日建学院としては、全国62拠点

〈事業案内〉

①教育事業

日建学院・・・建築士をはじめとする資格取得のための学校。全国135校の受講生も年間約10万人と民間建設教育機関では業界一を誇り多くの受験生から高い評価と信頼を得ています。

日建工科専門学校・・・建設業界の担い手育成を目的に設立された学校法人。2年制の専門学校で、建築士資格取得に必要な知識・技術を学習します。1・2級建築士受験資格認定校であり、即戦力・実践向けの授業構成で「CAD授業」にも力を注いでいます。

②出版事業

建設業界への最新情報の提供を目的に、35年以

上に亘り専門出版物を発行。実務はもとより資格、教養など様々な用途に応えています。

〈経営理念〉

私たち建築資料研究社の事業は多岐に亘り、そのすべてにおいて、目指すところは建設業界への貢献です。

業界全体の進化のための資料開発、情報提供、流通拠点の設立など、厳しい経済環境に対応できる建設産業界の支援・育成を図っています。そして、次期業界を背負って立つ人材の育成に最も力を注いでいます。

〈青年へのメッセージ〉

皆さんの可能性は無限大です。自分自身の可能性を信じて、何事にも積極的にチャレンジしてください。



平成19年度 東京都産業教育振興会教育功労者表彰

平成19年度(財)産業教育振興中央会実施の「賜金記念産業教育功労者」および本会実施の「産業教育功労者」に対する表彰式が11月20日(火)に都庁第一本庁舎25階で行われた。今年度は、高等学校12名、中学校7名、専修学校1名の計20名の方が表彰された。

式では、西澤会長から受賞者に表彰状と記念品が渡され、永年の労苦に対するねぎらいのことが述べられた。さらに、東京都教育委員会を代表して新井清博学務部長から、産業教育に対する多大な貢献に対し、感謝のことが述べられた。

その後、(財)産業教育振興中央会を代表して専務理事の中山淑廣氏、東京都公立高等学校長協会を代表して副会長の苗村 深氏(都立福生高等学校長)、東京都中学校長会を代表して副会長の高橋忠雄氏(墨田区立錦糸中学校長)から祝辞をいただいた。



＜賜金記念産業教育功労表彰者＞

・都立農産高等学校	実習教諭	滋田 修司
・都立青梅総合高等学校	専修実習助手	島崎 修
・都立府中工業高等学校	実習教諭	小原 博人
・都立六郷工科高等学校	教諭	東海林定治
・都立科学技術高等学校	教諭	小島 昭雄
・都立芝商業高等学校	校長	山田 研治
・都立第四商業高等学校	教諭	渡邊 正和
・都立東高等学校	教諭	竹内 正年
・昭和第一学園高等学校	教諭	多田 一明
・安田学園高等学校	教諭	中山 龍雄
・安田学園高等学校	教諭	岡村 智
・安田学園高等学校	教諭	玉井 裕朗

＜中学校技術・家庭科教育功労表彰者＞

・小金井市教育委員会	教育長	向井 一身 (前 小金井市立小金井第二中学校長)
・足立区立第六中学校	教諭	穴沢 憲二
・北区立明桜中学校	校長	岩附 政美
・北区立堀船中学校	校長	中野 博志
・調布市立第六中学校	校長	長南 裕志
・江東区立第二大島中学校	校長	倉持真由美
・武蔵野市立第六中学校	教諭	高田 磨利

＜専修学校・短期大学産業教育功労表彰者＞

・愛国学園保育専門学校	副校長	横山トヨミ
-------------	-----	-------

平成19年度 生徒作文コンクール表彰式

生徒作文コンクール表彰式が12月14日(金)に新宿区立産業会館(BIZ新宿)多目的ホールで行われた。受賞者は緊張したなかにも喜びの表情で表彰式に出席し、本会の西澤会長から賞状と記念品が授与された。

本年度は、中学校205編、高等学校99編、専修学校20編の計324編の応募があった。作品数は昨年度より68編、応募学校数も15校増加した。次年度の応募の盛況をさらに期待したい。

【最優秀賞】

＜中学校の部＞

新宿区立牛込第二中学校	3年	森 早紀
板橋区立高島第二中学校	3年	幸澤美代子

＜高等学校の部＞

都立瑞穂農芸高等学校	3年	古田ゆう子
------------	----	-------

＜専修学校の部＞

青山製図専門学校	2年	小林由衣子
----------	----	-------



平成19年度 産学懇談会

今年度の産学懇談会は、昨年度に引き続き「産業界の方に学校の教育現場を理解してもらう」ことを目的に、理事の方を中心に商業高校と農業高校の見学と懇談を行った。

第1回目は、平成19年10月16日に都立芝商業高等学校で開催した。まず、当校の実習施設と授業風景を見学した後、山田校長から芝商業高校の教育実践と都立高校における商業教育の現状を報告していただいた。その後、私立商業高校の現状報告を聴き、意見交換を行った。



芝商業高校での授業見学

第2回目は、11月10日に都立園芸高校で当日開催されていた園芸展(学校祭)と実習農場を見学したあと、小川校長から園芸高校の取り組みと都立の農業高校の現状をお話しいただいた。

各回とも、参加者から学校の教育実践や熱心に学習に取り組む生徒の様子に驚きの声が上がっていた。

また、「先生方も生徒も熱心に取り組み、素晴らしい教育を行っていることが分かったが、このことが産業界にも中学校側にも十分伝わっていない。もっと多くの人に知らせていく必要がある。」との意見が出された。



園芸高校での農場（バラ園）見学

平成19年度 優良卒業生の表彰

(1) 表彰の趣旨

東京都の産業教育の振興に寄与し、ひいてはわが国の産業教育発展に役立ってくれることを願い、①学業、成績、人物ともに優れた生徒、②卒業後の進路に目的をもって取り組んでいる生徒を対象に表彰するものです。

(2) 今年度の受賞者数

会員校の中学校、高校、高専、短大、専修学校の生徒・学生の中から、123名に(財)産業教育振興中央会の表彰状が、1,125名に東京都産業教育振興会の表彰状が各校の校長を通して授与されます。

東京都産業教育振興会 ホームページアドレス
<http://www.tosanshin.org/>

事務局より

- 平成20年4月1日より教育庁学務部が教育庁都立学校教育部に名称が変わります。
- シリーズで、産業教育に関する実践事例やプロジェクト研究等を紹介しております。自薦他薦を問わず応募をお待ちしております。
- 本会は、東京都の産業教育をさらに飛躍させるために活動しています。会員みなさまのご要望をお寄せください。

発行 東京都産業教育振興会

〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1

東京都教育庁学務部高等学校教育課内

電話 03-5320-6729

Fax 03-5388-1727

印刷 有明印刷株式会社

再生紙を使用しています